



4. 中央北整備部がめざす姿

行政のリーダーシップと民間活力の両輪による、長年の悲願であった21世紀への土地利用転換を図る。

5. 中央北整備部の現状

<p>(1)重要成功要因</p> <p>事業展開への理解を深めるための外部への情報発信(権利者説明会、広報誌及びホームページ等)。 OJTやOFFJT(部会議及び研修など)による職員個々人の能力及び部全体の組織力の向上。 部内の情報共有を通じた「闘う組織」としての組織風土の醸成。</p>	<p>(2)経営上の強み</p> <p>能動的に取り組む姿勢による課題の早期発見。 きめ細かな対応による権利者との信頼関係の構築。 タイムリーな情報発信による事業への理解の享受。</p>	<p>(3)経営上の課題</p> <p>市民の満足に向けて</p> <p>換地に対する合意形成に時間を要する。 具体の土地利用は権利者にゆだねられ、土地利用の将来像を示しにくい。 事業が専門的かつ複雑なため、市民にとって分かりにくい面がある。</p> <p>組織体質の改善に向けて</p> <p>組織の新体制移行による人員増加に伴い、情報や意識の共有化が難しい。 公共団体施行(土地区画整理事業)の未経験のため試行錯誤による経営を余儀なくされる。 「集約換地」と「区域全体の付加価値の向上」の両輪が求められ、「施行者」と「市」の2面性(バランス)が必要となる。</p>
--	---	--

6. 中央北整備部の重点目標

<p>(1)市民満足の向上に向けて</p>	<p>権利者の意向に関してきめ細かく把握する。 まちづくり方針の公表により、能動的な土地利用計画を促す。 事業に関する情報発信(権利者説明会、広報誌及びホームページ等)を適宜実施する。</p>
<p>(2)組織体質の改善に向けて</p>	<p>部会議、課会議を通して情報の通風採光の向上に努めて情報共有を徹底する。 経験不足を補うため、法令や行政実例に精通(OJT、OFFJT)したうえで適切な運用を行う。 「集約換地」と「区域全体の付加価値の向上」の実現のため、強い「意志」と「勇気」をもって取り組む。</p>

7. 中央北整備部の目標

指 標	H19実績	H20実績	H21実績	H22実績	H23末実績	H24末目標
施策評価指標	権利者の意向確定率	-	-	-	60%	100%
	換地に対する合意率	-	-	-	80%	100%
	説明会への参加率	-	-	-	30%	30%
市民満足向上目標	計画検討委員会の参加率	-	-	-	80%	80%
	中北ミーティングの参加率	-	-	-	30%	30%
部会議の開催回数	-	-	-	-	30回	30回
課会議の開催回数	-	-	-	-	30回	30回
OJTの受講延べ人数	-	-	-	-	100人	100人
OFFJTの受講延べ人数	-	-	-	-	20人	20人